

学ぶ・語る・出会う

社会人ボランティアの声

岡 里美さん

受講科目

- ・名著購読「パンセと教養」
- ・名著購読「生きがいを考える」

—なぜこの授業を選ばれたのですか？

A.まず、時間的にちょうど良かったことがあります。月・火と続いていますしね。それに内容がおもしろそうだったの。パンセは哲学でしょう。一度は読んでみたいと思っていましたから。そして生きがいの授業！これには私びっくりしたの！だって、生きがいなんて私たちの周りで、日常的で当り前の言葉でしょう。それが学問になるなんて！ってね。

—なるほど・・・岡さんにとって生きがいとはどんなものなのですか？

A.私はねえ・・・生きがいて、毎日が失望しないで楽しく生活していけるように目標を持つことだって思ってきたの。特にこの年になると、生きがいて大切でしょ。だから自分の思っている課題と大学の学問とがマッチしたって思ったの。最初はね。

—違ったんですか？

A.そうなの！私の思ってもなかった生きがいの話だったの。すごい視点だなあって思ってね。新しい目を開かせてもらったと思って感激してる。

—この授業は社会学からの視点というものが大きな特徴でしたよね。確か喪失感に人が直面した時どうやって生きがいを見つけていくか・・・というふうな・・・

A.そう！私、考えたこともない視点だったの。それ以外にも社会学の視点をいろいろとお話して下さるのよ。それが新鮮だしとっても面白いの！

—そうなんですねえ！そうやって新しい視点を得て、日常的にも何か自分の中で変化がありましたか？

A.ありましたねえ。私ね、英文学出身なの。文学の中って登場人物が何を感じているのか、どんな人生を送ったのか、様々なことを感じていくでしょう。私自身も感情的なところ、直観の部分大切にしてきたのね。でもね、emotionalなものってそこで終わってしまうのね。ああ、かわいそうとか、うれしいとか、それ以上深まらないのね。でも授業に出たり先生方と話をしている、これまで感情論で解決してきたことを、もう一步深めて理論的に考えて、人間の心を分析するようになったわね。これはほんとに変わったこと。

一よくわかります。そのお話。社会人の方は社会での様々な経験があるわけですから、そこから学んだことを理論的に話して下さって、その上で感情を伝えてくださったら本当に臨場感がでるだろうなって思います。

A.だからね、私、今、プロセスが楽しめるようになったんです。体験があって、そこから得た感情でもって表現していたんだけど、この感情と表現の間に理論的なプロセスが生まれたのね。それが楽しいの。共創型の授業って、エッセンスを学習する場だと思う。自分の発言にどんなエッセンスが入られるか。学生さんもそこ、楽しめるようになったらいいのね。

一なぜ学生には難しいでしょうか・・・

A.きっと経験・体験がどうしても足りないんじゃないかしら・・・でも私も学生時代ってなにも考えてなかったわねえ。学生紛争だったでしょ、大学が安定してなかった。将来のことなんて何もわからなかった。今の学生さんの場合は時代が安定してないでしょ。だから将来のこと考えられていなくたって仕方ないのかもしれない。気持ちわかるなあ。

一う～ん・・・岡さんの発言を聞いていると、いつも岡さんが思っっしゃる生きがいを実践されて、具現化されていらっっしゃるようで・・・向上したい、学びたいという気持ちがとてもあふれてらっっしゃる。そのエネルギーはどこから？

A.それはね、好奇心よね。やっぱり人間を知りたいんだと思う。それとね、私、ずっと続けてきたことにホームステイがあるの。ボランティアでね。もう半世紀くらい、ずっと続けてる（笑）いろんな国の人、子供から大人まで、様々な人を受け入れてきたの。その出会いの数だけ、学びのきっかけがあったわ。それが好奇心を支えてたってことかな。そしてまた次の出会いを充実したものへと繋げるために勉強する。それによって自分が固くなくなってしまうずに柔軟性をもって相手を受け入れられるんだと思うの。

一では、岡さんが学生や大学に何かメッセージを送るとしたら・・・

A.とにかく無関心にならないでほしい。人との関係に無関心になってしまわないでほしいんです。学生にも先生にも（笑）とにかくタッチしてほしいわ。きっとそこになにかあるから。人ってね、ほんとに面白いものよ！

すらりとスマートで、いつも素敵な雰囲気を醸し出しておられる岡さん。発言も行動もとにかくアクティブです！そのしなやかで強いエネルギーは、人への興味とそこで生まれる出会いとの化学反応によって生み出されているのかもしれない。人と触れ合うことの素晴らしさを、これからもたくさん教えてください。

岡さん、ありがとうございました！